

平成 25 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(南原、越地、湯坂地区)

開催日時	平成 25 年 9 月 3 日 (火) 午後 7 時から午後 9 時	天気 曇り
場 所	高齢者いきいきセンター	
町民参加者	男 22 人 女 1 人 (40 代以下 0 人、50 代 1 人、60 代以上 22 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、企画財政課長、総務防災課長、商工観光課長、生涯学習課長、学校教育課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：丸山の将来像について》

○丸山山頂に向かう道路は途中ゲートで封鎖されているが、工場開業後の道路の扱いはどのようなになるのか。

○丸山山頂は眺望も良く観光的な財産になると思う。その眺望を生かして展望台を作る等何らかの活用の考えがあるのか。

○丸山の再開発に伴う植栽についてだが、丸山中腹には有志の方が桜の木を植えている。植栽するのであれば観光に結びつく植栽の方が望ましいと思うがいかがか。

○会社が稼働した場合、児童の安全を確保するため歩道橋を設置した方が良いとの意見があるが、将来的にどのような安全対策を考えているのかを聞きたい。

○丸山への企業進出について、町として財政的にはどの程度のメリットが出るのかを聞きたい。

○どのような企業が来るのかを事前に見学できないか、その際はどのような手続きをすれば良いのかを聞きたい。

《テーマ：町はどのような災害を想定した防災計画を策定しているのか》

○地域防災計画に自主防災組織の役割や責務等に関する記載があるようだが、町民や自主防災組織に対して公開はしたのか。公開する場合どのような形で公開するのか。

○町民の責務となる 3 日分の食料備蓄について、町民に対する指示や啓発は実施したのか。

○岸地区には化学薬品を扱う工場が複数あるが、万一化学薬品による事故や複合災害発生、地震等で化学薬品を扱う工場が倒壊したとき、町は企業とどのような提携がされているのか、また住民への周知はどうなるのか。

○化学薬品を取り扱う工場では薬品の対応マニュアルを持っているはずなので、企業から対応マニュアルをもらったらどうか。

○災害発生時に住民からの情報収集対策としてSNSやアマチュア無線が有効と聞いており、アマチュア無線団体への協力を積極的に働きかけて仲間に入ってもらうのも一つの方法だと思う。

○東日本大震災ではSNSで被害情報の発信をした自治体で多くのボランティアが集まったが、町としてSNS等の新しい手法で情報発信をすることを考えているか。

《テーマ：その他》

○小学生の通学を見守る見守り隊の服装がバラバラのため、目印となる統一的なものがないか。

○大雨が降ると御殿場線は松田駅で止まってしまう。JR東海に要請して、山北駅まで運行してもらえるよう、町としても考えてもらいたい。

○町からの連絡方法は郵便によるものが主だが、E-mailを活用することも考えた方が良くはないか。

○災害時要援護者支援制度は、個人情報関係で自治会長や民生委員だけが知っているとは思いますが、要援護者がいる組の組長に知らせることはできないのか。また、支援者になることを同意してくれた方に対し、意識を高めるため委嘱状等が発行してもらえないか。